

タイトル…やわらかな、陽の下で。

著者名…緋室井 茜音

あらすじ

幼馴染の日葵を失った青年・真柴が、かつて彼女と訪れた花屋へ営業に行き、店員の実花から向日葵の種を託され育て始める。彼は独りで様々な困難で芽は倒れ、諦めかけるが夢で“日葵”に背を押され、実花の助言により“肥料のやり過ぎ”と知り手当てをし、やわらかな陽の下で小さな葉が開くのであった。

本編文字数…5112文字20枚

登場人物

真柴健一 ましばけんいち

(25)

花屋包装資材営業

石山実花 いしやまみか

(21)

石山園芸店員・大学生

花村日葵 はなむらひまり

(享年10)

真柴の幼馴染

石山直美 いしやまなおみ

(35)

花屋店員・実花の母

真柴和代 ましばかずよ

(52)

真柴の母親

○陽向商店街・夕

アーチ看板に「陽向商店街」の文字。
古びた喫茶店や八百屋、閉まりかけの
シャッター。短冊が風に揺れ、遠くで
ベルの音。

真柴健一^{ましばけんいち}が駆け込む。
(25)

段差に躓きかけ、目を閉じる。
荒い息を吐き、呼吸を整える。
目を開け、前を見渡す。

真柴M「……やっぱり、俺一人じゃ無理だ」

真柴、顔を上げる。

赤い夕陽が遠くに差している。

真柴M「でも、彼女なら……！」

真柴、鞆を握り直し、夕陽に向かって
走り出す。

○陽向駅前・夕方

電車が過ぎ、風が吹き抜ける。
改札を出る人の流れ。駅名板^{ひなた}≪陽向駅≫
大時計は四時台を指している。

真柴、スマホを一瞥。画面に通知≡件名…加納氏急病。代打頼んだ≡小さく息を吐き、歩き出す。

○陽向商店街・夕

アーチ看板≡向商店街≡下を歩く

真柴。並ぶ店々の一角に、古びた緑色テント。その下に鉢植えや切り花が並び、看板には≡石山園芸≡。

真柴、歩みを止めて店先を見つめる。

真柴「…：やっぱり、ここだよな…：」

鞆を握り直し、ドアに手をかける。

○（回想）石山園芸

T『15年前』

雨上がりの舗道。雫の光。

軒先の鉢から水滴が落ちる。

小さな手が真柴健一(10)の袖を引く。花_{はな}

村日葵_{むらひまり}(10)。

棚に鉢植え。土に水滴が光る。古びた

木柱。

カウンターから石山直美^{いしやまなおみ} (35)、笑顔でノ

ートを差し出す。

直美「よかったら“好きなお花”や“言葉”

を書いてみない？」

日葵、目を輝かせてペンを握る。

日葵「書きたい！ケンくんも、絵うまいんだから描こうよ！」

健一、少し困り顔。

健一「えー……俺はいいよ」

日葵はノートのページに書き込む。

≪ひまり・絶対咲かせたい！≫。

健一、思わずのぞき込む。

健一「……本当にひまわりが好きなんだな」

日葵「うん！じゃあさ——ケンくんも描い

て！二人で描いて、二人で育てて咲かせよう！」

健一、迷いながらもペンを取る。

健一「……じゃあ、ひまわり、描くよ」

二人のページが並ぶ。

日葵「種ください！」

と元気に手を挙げる。

直美、笑いながら袋を渡す。

——雨上がりの光が差し込み、日葵の笑顔を照らす。

真柴M「その年、日葵は病に倒れた。早すぎる死だった」

○石山園芸・店内（夕）

ベルの音。扉が開き、夕陽が

ガラス越しに差し込む。

カウンター奥から、白いエプロン姿の

石山実花^{いしやまみか}（21）が出てくる。

視線が触れ、短い沈黙。

実花「いらっしゃいませ。どんなお花をお探
しですか？」

真柴、店奥の向日葵に目をやる。花の
首が、光に揺れる。

真柴「季節には、まだ早いのに……綺麗です
ね……この向日葵」

実花、微笑む。

実花「お目が高いですね。その向日葵、私が育てたんです」

真柴、目を瞬かせて視線を戻す。実花、花に触れたまま話し始める。

実花「向日葵って育てるの難しいけど、諦めなければ咲く花で、私好きなんです！」

真柴、息を整え、営業鞆を少し持ち上げ
る。

真柴「……実は自分は包装紙の営業で伺
まして。担当の加納が体調を崩し、代わ
りに来ました。真柴といいます。本日
は、弊社の新製品の紹介させて頂ければ
と思い来ました」

実花、うなづく。

実花「そうでしたか、お疲れさまです」

真柴、営業バッグから包装紙サンプル
を出す。

真柴「こちらは花に優しい素材で、通気性も
良く……」

実花、手を止めて見つめる。包装紙を試す。花の首元がつかえる。真柴、手を添える。

真柴「ここを少し折り返すと……ほら、花が呼吸しやすくなります」

実花、目を見開いて真柴を見る。

実花「……お花、好きなんです」

真柴、わずかに間を置く。

真柴「まあ……人よりは」

壁の時計、4時45分。

カウンター端にノートとペン立て。

実花、レジ横の紙袋を取りに行き、隣のノートに目を留める。手に取る。

実花「よかったら、何か残していきませんか？」

真柴、一拍置いてページを開く。

古い頁≪ひまり・絶対咲かせたい！≫の文字と向日葵の絵。

真柴、指先が止まる。紙がかすかに震える。めくり損ね、ノートが滑りかける。すぐ受け止める。小さく息を吐き、

新しい頁に鉛筆を置く。線が伸び、花の輪郭が現れる。

実花、見守る。目元がほころぶ。

実花「やつぱり、今でも絵、上手なんだね」

真柴、顔を上げる。

真柴「え？」

実花、はっとして視線を逸らす。

実花「……あれ？　今、私なにか言いいました？」

真柴、視線を落とす。

真柴「いいえ、なんでもないです」

真柴、ノートに描き続ける。

実花、カウンター奥へ。小さな紙袋を持って戻る。

実花「これ、向日葵の種です。素敵なお絵に。きっと真柴さんなら、綺麗に咲かせてくれると思うんです」

真柴、袋と実花の顔を交互に見る。指先がかすかに震える。

真柴「……自分が、受け取っていいんですか？」

実花、うなずく。間。

真柴、紙袋を受け取る。

袋の端に「ケンくんへ頑張つて！」。一瞬のぞき、彼の指で隠れる。

真柴、袋を胸に寄せる。視線は実花。

店の奥でベルがかすかに鳴る。花びらがわずかに揺れる。

○真柴家・リビング（夜）

台所の明かり。真柴和代^{ましばかずよ}（52）、エプロン姿で台所に立つ。

味噌汁の湯気。包丁がまな板に小さく当たる音。

テレビ画面に、部屋の明かりが映る。

真柴、ソファに腰を下ろし、鞆を足元に置く。

和代の手が止まる。食器の触れ合う音も止む。

和代「……健一」

一拍。

和代「もう、絵は描かないのかい？」

真柴、口元だけ笑い、視線をテーブルの角に落とす。

真柴「……そのうち。仕事、詰まって」

和代、火を弱める。小さく息を吐く。

包丁の音が戻る。

壁の時計。秒針の音が部屋に響く。

○真柴家・自室（夜）

卓上スタンドの光。散らかったスケッチブック。未完成の日葵が向日葵を抱いている絵。

真柴、ポケットから小さな紙袋を出し机に置く。

真柴M「……いまは、まだ」

真柴、ページを閉じてベッドに仰向けになる。

天井の染み、隙間から差す街灯の光。時計の音の中、真柴、目を閉じる。

○ 白い花畑・（夢）

白い靄に包まれた光の平原。

足首までの白い花の間を影が進む。

日葵が向日葵を抱き、微笑む。

日葵「今度は――絶対、一緒に咲かせようね」

日葵の声が途切れる。

輪郭が光に溶けていく。

真柴「待って、日葵ちゃん！」

届かず、視界が白に包まれる。

○ 真柴家・自室（夜明け）

カーテンの隙間から光が机に落ちる。

ベッドで目を開け、上体を起こす真柴。

机には紙袋とスケッチブック。真柴、

古びた図鑑を手取る。ページを開く

指が止まり、かすかに震える。

カレンダーの日付は6月30日。

真柴「（小さく）……咲かせるって、簡単じゃ

ないんだよ。日葵ちゃん」

窓の外で風鈴が鳴り、静けさが戻る。

○同・外観（朝）

白い光に外壁が照らされる。洗濯物が揺れ、鳥の声。

○同・花壇（朝）

黒い土に露が光る。

真柴、スコップで土をならす。紙袋から種を落とし、土をかぶせる。水を注ぎ、立ち上がる。

真柴「日葵ちゃん、咲いたら見せに行くから」

風鈴が鳴り、湿った土が光る。

○同・花壇（朝）

白い光。鳥の声。

ジョウロの水が土に沁みる。

スマホ画面…（向日葵 水やり 頻度）

画面隅に日付（7/2）。

土を見つめる。

○同・花壇（夕）

夕焼け。影が伸びる。

表土を指で確かめ、割り箸でほぐす。

スマホ画面…（向日葵 発芽 日数）

画面隅に日付（7/4）。

真柴、画面を閉じ黙って土を見る。

○同・花壇（朝）

鳥の声に近い。

土の割れ目。極小の緑が顔を出す。

真柴、しゃがみ息を吞む。

スマホ画面…日付（7/5）。

しばし見つめ――

真柴「……来た……！」

わずかに笑み、スケッチブックに小さな芽を描く。

○同・花壇（夕）

西日の庭。双葉が垂れ、土が光る。

真柴、茎に触れる。指先が止まる。

スマホ画面…向日葵 元気がない／

「」。日照不足」肥料不足」

「病気」…。

真柴、眉間にしわ。画面を閉じる。

○同・自室（夜）

卓上スタンドの白。図鑑と描きかけの
芽のスケッチ。

真柴、ベッドに横たわり目を閉じる。

真柴「（小さく）…：日葵ちゃん、俺には無理
みたいだよ…：咲かせたいのに…：」

秒針の音だけが響く。呼吸が浅くなる。
まぶたが落ちる。

○白い花畑（夢）

日葵が向日葵を抱いて立っている。

真柴「…：俺じゃ、やっぱり無理なんだ」

日葵「ケンちゃんならできるよ。ほら、芽も
生えたし」

真柴「…：でも、全然うまくいかない。咲か

せたいのに」

日葵「頑張って。私に見せてー」

輪郭が光に溶ける。遠くから囁き声。

日葵「……そのうち、強い助っ人が来るよ」

視界が白くなる。

○同・花壇（朝）

朝の光。鳥の声。双葉は、昨夜よりわずかに持ち上がっている。

画面隅に日付〈7/12〉

真柴、しゃがみ込み、息をのむ。

真柴「（小声）……まだ、大丈夫だ」

土に指を入れ、水を落とす。

○同・花壇（夕）

空が暗くなり、風が唸る。双葉が揺れ、支柱がきしむ。

スマホ画面――〈7/14〉赤い雨雲。大粒の雨が落ちる。

真柴、骨組みにビニールを掛ける。

溜まった水が崩れ落ち、泥が跳ね、根元が露わになる。

真柴「……持ってくれ……！」

風が強まり、雨音だけが残る。

○同・花壇（朝）

雨上がり。鳥の声。スマホに《7/15》。

芽は折れ、泥に伏す。真柴、しゃがむ。

指を伸ばし、止める。拳が震える。

真柴「……ごめん。守れなかった……」

涙が落ちる。真柴、唇を噛み、俯く。

真柴「（震える声）……やっぱり……俺一人じ

や……無理なんだ……！」

沈黙。湿った土だけが視界に残る。

○同・自室（夕）

カーテン越しの橙。

机にスケッチブックと種袋。真柴、ペー
ージを開く。日葵と向日葵の絵。

真柴「（小声）……どうしたらいいんだよ……」

ふと、机の端の種袋に視線が落ちる。
裏には、小さな手書きの文字。

『ケンくんへ 頑張つて！』

真柴、目を見開く。

真柴「（震える声）……なんで、こんなところに……」

夢での声がよみがえる。

日葵『そのうち、強い助っ人が来るよ』

真柴、しばし袋を見つめ、そっと机に置き直し、部屋から出る。

○同・花壇（夕）

赤から群青へ変わる空。

芽は泥に伏し、黄色く色を失っている。

真柴、しゃがみ込み、茎に触れかけて止まる。視線が泳ぎ、喉が震える。

真柴 M「……俺一人じゃ、無理だ……でも彼女なら……もしかしたら」

花壇を見つめ、拳を固める。

やがて顔を上げ、瞳に光を宿す。

振り返り、一瞬の躊躇い走り出す。

○陽向商店街・（夕）

アーチ看板の下、短冊が揺れ、提灯が赤く灯る。

真柴 M 「……彼女なら、この小さな命を救えるはずなんだ」

真柴、荒い息で走り抜ける。足がもつれ、体を傾けて持ち直す。

人混みに阻まれ、肩がぶつかる。

真柴 「すみません、通してください！」

深呼吸し、歩を強めると。

目の前にエプロン姿の実花を見かける。

真柴、実花二人、見つめ合う。

真柴「（息を切らせ）……どうして、ここに？」

実花「夢で見たんです。真柴さんが困っているって」

真柴「そうなんです……向日葵の芽が……とにかく助けてほしいんです！」

実花「（頷き）落ち着いてください。大丈夫ですよ。私一緒に見に行きますから」

○同・商店街（夕）

真柴、実花と並んで小走り。

真柴「さっき言ってた夢ですが、どんな夢を見たんですか？」

実花「ぼんやりしか覚えてませんが……この辺りの光景を歩いてて。小さな女の子が出てきて、‘‘助けてあげてほしい！’’って」

真柴、驚きに足を止めそうになる。視線が実花へ向く。。

○真柴家・花壇（夕）

実花、芽を見つめて穏やかに。

実花「真柴さん……肥料のあげすぎです」

真柴、焦りで言葉を詰まらせる。

真柴「た……助かりますか？」

実花、頷いて芽に視線を戻す。

実花「大丈夫。この子はまだ咲きますよ」

真柴、目を伏せて涙をこぼす。

真柴「……本当に、良かった……」

実花、彼を見てやわらかく笑む。

実花「顔を見れば分かります。大事に育てようとしてたつて。でも油断は禁物。しばらくは一緒に見てあげますね」

真柴、救われるように頷く。

二人の間に、夕陽の光が差す。

○真柴家・花壇（朝）

陽光が差す。葉に露が残り、風がそよぐ。スマホ画面――《7/25》。

真柴、水をやる。隣に実花。足元にはスケッチブック。

実花「花はね、諦めなければ必ず応えてくれるんです」

真柴「ああ、本当に……そういえば、石山さんはなんで花が好きなんですか？」

実花、視線を伏せる。

実花「小さい頃、大きな手術をしました。母

が言っただけです……「誰かの命をもらったんだよ」って。それからかもしれない。花が好きになったのは」

真柴、芽を見下ろし、スケッチブックを開いて鉛筆を走らせる。小さな芽の絵が描き足される。

実花、絵を覗き込む。

実花「……真柴さんの絵。初めて見た感じがしないんです。こないだのノートでも、そう思いました」

真柴、戸惑い、鉛筆を止める。芽を見下ろし、指先に力を込める。

真柴「……きつと咲かせるよ。彼女に届くように……！」

実花、芽に視線を戻し、微笑む。

実花「きつと届きますよ。だから一緒に咲かせましょう！」

木々が揺れ、葉の音が広がる。芽は小さく揺れ、光を受ける。

——やわらかな、陽の下で。